

## 秋の陣 その6

磐城高校生よ。この夏休みは、どんな試みを企て、どんな実績を残し、どこに志向していったのか。土日の模擬試験の手ごたえはどんなものなのか。昨日の休日課外では、今後の課題が発見できたのか。もう一度自己検証して、自分の目指すところへ向かっていってください。

全国的に夏季休暇は8月いっぱいのところが多いはずだ。10日早く秋の陣に向けて体制づくりを施したわけだから、長い秋の積み重ねに向けて、自分の持つ戦力を充実させてほしい。

お盆の最終日に、昔、田村高校の野球監督だったころのメンバーが集まるというので、久しぶりに参加させていただいた。場所は、船引の江戸銀というお寿司屋さん。大将は、そのころ、切磋琢磨していた船引高校の野球部出身で、息子さんは、今年の田村高校の選手ということだった。

昔話に花を咲かせていると、その中の通称ごんちゃん、練習試合や公式試合の結果や日にちやメンバーをほぼ完璧に覚えていて、学法石川高校との練習試合に、川越(後にロッテに在籍)という投手が5回から出てきたが、同点のまま、延長15回まで戦った話や、茨城遠征で宿泊した旅館の場所やその時の対戦相手なども、私が忘れていた細部まで、細かく覚えていたのは驚きを超えていた。

このことから、15歳から18歳という時期の学習や部活動に心から専心している時代の記憶は、長期記憶となって自分の血となり肉となっているのがわかる。昨日のおかずを覚えてはいないが、あの試合の最初のストライクを打ち損ねた記憶や、サインミスや外されたスクイズの苦い記憶は、一生自分の中に残っているのだ。

それと同じく、模擬試験でことのほかうまくいった問題や、こだわって時間をかけても正答までたどり着けなかった記憶は、ほぼ一生残るのだろうと考える。

ほぼ30年前、まだ、31歳だった夏には、百本ノックを20人に毎日行っていたし、そのあとの午後の練習には、レフトからライトまでの、またライトからレフトまでのアメリカンノックを50本行っていた時代なので、朝8時から夕方7時まで毎日、いくらやっても尽きないスタミナとこだわりと勝利への執着があった。負けていられなかった。意地だけで生きていた。

10対0とか15対1とかで、郡山の高校に負けている時代から、必死で抜け出そうともがいていた。やがて、勝つことができる時代はやってきた。東北大会も2度行った。

その日はきっと来るのだ。もがけ、磐城高校生徒諸君。

